

- 日 時 平成25年6月13日（木）10：01～11：43
- 場 所 中央合同庁舎4号館 共用第2特別会議室
- 出席者 山本大臣、久間議員、青木議員、中鉢議員、橋本議員、平野議員
清水内閣府審議官、倉持統括官、中野審議官、森本審議官、山岸審議官

○ 議事概要

議題1. 24年度科学技術戦略推進費緊急研究「高濃度に放射性セシウムで汚染された魚類の汚染源・汚染経路の解明のための緊急調査研究」の結果について

○久間議員 最初の議題は、24年度科学技術戦略推進費緊急課題「高濃度に放射性セシウムで汚染された魚類の汚染源・汚染経路の解明のための緊急調査研究」の結果についてですが、事務局から先ず簡単に説明して頂き、その後、水産庁から説明頂きたいと思います。

<内閣府 中川企画官から説明>

<水産庁 香川増殖推進部長及び森田研究指導課水産研究専門官から説明>

○久間議員 それでは、コメント或いは質問等ありましたら。橋本議員。

○橋本議員 大変大切なプロジェクトの報告を有難うございます。2点あります。1つは、専門家による調査研究ですから全く心配ないと思うのですが、サイエンティストの立場で、2ページ目の下のグラフについて少し分からないところがあります。これを見るとピークが2011年、ちょうど事故が起きた時にピークとなっています。これより後の時期が非対称的に高いのは分かるのですが、2011年より前の方がかえって高いことについてはどのように考えるのでしょうか。

○森田専門官 2ページ目の下のグラフのオレンジの線だと思うのですが、これは放射性濃度を表しているのではなくて、魚の輪紋の濃さを表しています。

○橋本議員 分かりました。でも、上のデータで見ても同じなのですね。上のデータで赤いところを見ると、2011年の前後で、後ろの方に赤色が多くなるのは分かるのですが、前の方がむしろ赤色が多いですね。これはどのように見るのですか。

○森田専門官 IPプレートというイメージングプレートに耳石を設置しているのですが、垂直に放射性物質が飛ぶものではなくて、四方八方に飛ぶことから、後ろの部分でも検出されるのですが、ここは拡大しているので前のほうの赤い部分が目立ちますが、全体を見ると2011年のピークの所に濃度の濃いものが集中しています。

○橋本議員 すみません、今の説明がちょっと分からない。それであれば、分解能が低いような、そういう形で出てくるのではないのでしょうか。ピークの左と右で右側の方がデータの濃度の高いものが出てくるのは分かるのですが、左の方が非常に高くなるというのは今のお話では説明できないですね。

○森田専門官 プレート上に置いた耳石の四方八方に乗ってしまっていて、たまたまここで見ると赤いものが見えるのですが、トータルで2011年のラインをずっと見ていくと濃度の濃い赤い部分が集中しています。

○橋本議員 たまたまここはそのように見えるということなのですね。そうすると、この出し方は良くないように思います。私達のように研究データを普段見ている者の視点で言うと、先程の説明は全然理解できないので、データの出し方は気を付けて頂いた方が宜しいのではないのでしょうか。

○森田専門官 トータルの量ということです。

○橋本議員 言っておられることは分かりました。これはたまたま局所的にここの部分がこういうふうになっていたとい

う話ですね。

○森田専門官 はい、そうです。

○橋本議員 分かりました。それからもう1点、今の話とも関係あることですが、専門的なデータは普段見ている人間が見るとある程度分かるし、こういう詳細なデータの提示も必要だと思うのですが、今重要なのは一般の方に分かり易く説明することだと思うのです。ですので、ホームページに載せる時に、こういうバックとなるデータはきちんと載せて頂きたいですけれども、もう少し一般の方が分かり易いような形で出して頂く必要があるのではないかなと思います。私達も常々そういうことに気を付けています。

但し、あまりにもデータを加工してしまって、誤魔化されているような感じがしてはいけません。こういう詳細なデータはアペンディックスか何かでつけるなど、ホームページ上で公開する時は工夫して頂きたいなと思います。

○久間議員 他に御質問等ありましたら。

○青木議員 「水産物の放射性物質調査結果」の資料の最初の棒グラフの高さなのですけれども、これは0以上のを全部書いてあるのに、こうバリエーションがあるというのは、獲れたお魚の数が違ったということなのですか。

○水産庁長谷川課長補佐 この棒グラフの高さは検体数を示しております、事故後間もなくは漁業そのものが殆ど再開されていない状態でしたので、検体数が下がっていました。徐々に魚を獲れるような態勢が出来てきて検体数が上がってきたというのが、この検体数の推移に影響しております。これは四半期毎に出しているのですけれども、一番右側のものは平成25年4-5月の2か月分ですので、ちょっと少なめの数字が出ているということでございます。

○青木議員 では、これは獲った人から貰ったのですか。私は、網を張っておいて、むしろ自粛したので、お魚が増えて獲れる量が増えたのかなと思ったのですけれども、そうではなくて。

○水産庁長谷川課長補佐 そうではなくて、福島県は現在試験操業以外全面自粛しておりますから、漁業者にお願いして調査用の操業をしてもらって、サンプルとしているデータです。

○青木議員 分かりました。もう一つ、8ページにイワナの放射性セシウム濃度のグラフがありますが、これは年をとるに従って増えていっているのですけれども、沢山汚染したものを食べたからと理解するのか、それとも事故が起きた時に。そうではないのか、沢山食べたからどんどん増えていくのですね。そうでなければ、一回事故を経験したら汚染が上がって、そのままのはずですよね。そういうふうに解釈すればいいですか。

○森田専門官 その両方が考えられていまして、事故を経験した時の濃度と、その後の餌を食べることによっての汚染というふうに考えています。年齢の高いものの方が魚としては大きいので、餌もよく食べるということで、年齢が高くなるに従って汚染していると考えています。

○青木議員 なるほど。そうすると、9ページのヒメマスのグラフを見ると年齢が高くなっても増えていないですが、これは飽和しているということなのですか。

○水産庁長谷川課長補佐 前のページですと、若い魚、要するにフォールアウトを経験していない魚は濃度が低いということで、こういう右肩上がりの線になっているのですが、中禅寺湖のヒメマスの場合はフォールアウトを経験していない魚も年をとった魚と同じように汚染されているということで、横並びというか、平行にずっといったようなグラフになっていると、そういうことかと思っております。

○青木議員 でも、3歳のも同じ汚染になっていますよね。

○水産庁長谷川課長補佐 そうですね。ここについては飽和しているのかどうかというところまではちょっと分からないという状況です。

○青木議員 伺うのは、人間の調査をする時にコーホートと年齢内セクトは区別出来ないいつも問題になるのですね。同じ問題がお魚でも起きているなと思って。だけれども、こちらのデータを利用すればそれが区別出来るのかなと思っ

て伺っただけなのです。あれだったら分解するのを試みてください。どうも有難うございました。

○久間議員 汚染解明に関しまして、努力、大変有難うございます。2点、お願いがあります。1つ目は、クロダイ等まだ解明されていないものの調査研究を継続して、早く解明して頂きたいということ。2つ目は、こういったことは国民に対して正しく伝えることが大切だと思いますので、先程ホームページの話もありましたけれども、今まで解明出来たもの、それから、まだ解明中のものを、ホームページ以外でも、色々なメディア等を使って分かり易く明確に報告して頂きたいと思います。宜しく申し上げます。

議題2. 産業競争力会議等について

○久間議員 それでは、2つ目の議題、産業競争力会議について、事務局から説明して頂きます。

<内閣府 杉谷参事官から説明>

○久間議員 橋本議員から産業競争力会議の関係で補足があればお願いします。

○橋本議員 この成長戦略（案）に関して、今までの戦略プランと何が違うのだということを常々問われる訳ですが、安倍総理はこの成長戦略は必ず実行するということが今までと違うのだということを言っておられます。今、御説明があったように、総合科学技術会議関係では科学技術イノベーション総合戦略が成長戦略の中にしっかりと取り込まれており、今後その実行を求められております。総合科学技術会議として我々が提案したことの殆どが認められている訳です。まさにこれからはそれを実行することが問われていると思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

○久間議員 その他、御質問或いはコメントがありましたら。

○青木議員 成長戦略（案）の6ページの「（3）新たなフロンティアを作り出す」というところに「（オールジャパン・・・）」と書いてあるのでけれども、この意味は何なのですか。「オールジャパン」というのは時々、人によって違うことがあると思うのですね、意味が。

○杉谷参事官 解釈を確認した訳ではございませんが、科学技術イノベーションで言えば、「府省横断で」若しくは「政府一体となって」又は「産学官一体となって」ということを表しているのだと思われます。

○久間議員 それでは、まだ御質問があるでしょうけれども、時間になりましたので、これで議題2を終わらせて頂きます。

議題3. 平成26年度科学技術関係予算重点化等の進め方について

議題4. 第1回科学技術イノベーション予算戦略会議について

(率直な意見交換の場とするため非公開)